



人口、1745 人。神奈川県川崎市や大阪府堺市とあまり変わらない面積の自治体に、信号は 2 つ。非業の最期を遂げた若者たち。最後の一頭になった悲劇の獣。
そんな「終わり」が似合う場所が今、「始まり」が似合う希望の土地に。

こんにちは田中泰延です

『街頭をゆく』... 例によってどこかで見たような題名で始めました。そうです、司馬遼太郎大先生の『街道をゆく』と果てしなくまぎらわしいこのコラム。

こんにちは。田中泰延（たなか ひろのぶ）と申します。
今回の『街頭をゆく 檜原市紀行』



街頭をゆく 田中泰延 檀原市紀行 (1) - 檀原神宮編



街頭をゆく 田中泰延 檀原市紀行 (2) - 今井町編



街頭をゆく 田中泰延 檀原市紀行 (3) - 香具山～藤原宮跡編

に続きまして、奈良新聞社からのお誘いで、奈良県の自治体を訪ね、いろいろ見て回って考えるという機会をいただきました。

今回は**東吉野村**にお伺いします。

『街頭をゆく』

この紀行文は、あの偉大な『街道をゆく』とは題名は似ているけど何が違うかと言いますと、歴史を伝える街道をつぶさに観察し、思索しながら歩くのではなく、たんに知らない場所まで行って、**なんとなく街頭をぶらつく**という、あまり苦勞のないレポートだということです。

ちなみに今回訪問する奈良県東吉野村へは、近鉄電車で向かいました。東吉野村はここに 있습니다。



出典：[東吉野村観光協会](#)

私が住んでいるのは大阪市内です。まずは近鉄電車に乗り、「大和八木」駅に降り立ちました。そうです、前回の橿原市へのアクセスと同じなのですが、そこから車で50分。

橿原市から走り出してすぐに...





奈良県には度肝を抜かれます。

いやいや、旅は始まったばかりです。車はひたすら山奥へと進んでいきます。かれこれ 30 分以上、信号に出会いません。

着きました！東吉野村



山あいの清流のほとり、そこに現れたのは...



おおお、なんと壮大な村役場。村のシンボルマークが...



ややコンピューター的な何かを思い出しましたが、



出典：[Wikipedia](#)

よく見るとちがいます。

hy は、「ヒガシ・ヨシノムラ」の頭文字のようです。カッコエエなあ。



村役場の榎本賢二さんが出迎えてくださいました。

村長さん



まずは村長の水本実さんに表敬訪問です。



「人口が減少し続けていた東吉野村ですが、最近是他府県から**移住してこられる方**が多くなってきています」



(ううむ...移住。あれでしょ？ サラリーマンを**定年退職した夫婦がトマト**とか作って Facebook で自慢するやつでしょ...)



村長それは...

「東吉野村のキャラクター、ひよしちゃんです。狼をデザインしています。東吉野村は絶滅したニホンオオカミの最後の一頭が捕獲された場所なんです」



「ひよしちゃん」...ってひよっとして「ひがし・よしのちゃん」の略かよ。



(ゆるい)



「ニホンオオカミ以外にも、みどころがたくさんある村です。七滝八壺、俳句のさと、幕末の天誅組終焉の地、丹生川上神社、神武天皇が戦勝を祈願した夢淵...」



(多い 書くの大変)

「それから『小さな道の駅』というのもつくりましてね、村民にはゆずの苗を配って育ててもらい、名産品として販売しています」



(ゆず... トマトじゃなくて**定年退職したサラリーマンがゆずを育てる話**を書かなきゃいけないのか)



あのう、村長村長、この『街頭をゆく』は**自然歴史紀行コラム**なんです。移住者が増えたのはいいことですが、そんな**定年退職した夫婦の家庭菜園の話**は書きたくないんです。ありがちな自治体の宣伝は書きたくないんです。



「いや、移住者は**クリエイティブ・ビレッジ構想**に共感してくれたみなさんです。田中さんがいま思い浮かべている人たちとは全然違うんですよ。いまにわかります」



(クリエイティブ・ビレッジ構想？)

「これを見てください」





(えっ...若い...イケメンが集まってるやないか)



(何が起こるとるんや)



「手始めに、オフィスキャンプを訪ねてみてください」



(オフィス... キャンプ?)

「あれです。さっきから見えています」



えっ? ええっ? あれですか?



「わたしは生まれも育ちもこの村です。うつくしい土地です。ゆっくり見ていってください」

オフィス・キャンプと若き移住者たち



村役場と清流を挟んだ向かい、古民家のようなこの建物。



中に入ると



サ、サレオツ・リノベーション！



シャレオツな積み木のオブジェもあります。



お話を伺ったのは代表の**坂本大祐**さん。



「Wi-fi とノート PCがあれば**どこでも仕事ができる時代**じゃないですか。僕は大阪でデザイナーをしていたんですが、いい環境のほうがクリエイティブな仕事ができるんじゃないかって。ならば引っ越してしまえと。で、自然が気に入ったここに**シェアオフィス**をつくれればいいんじゃないかと考えて。水本村長の考えとも合致しまして」



「そうしたら、ここが一つの場になって、**クリエイティブな仕事をする同世代の人たち**が集まって、コミュニティができてきたんです。村役場が住む家を紹介してくださって、みんな移住しはじめたんです」



すると、あのイケメン軍団は...



「ええ、移住してきた同世代です。プロダクトデザイナーや、木クリエイター、カメラマンとか。ここで『村民同士』になってクリエイティブチームを作れる」



いや、もうまったく予想してなかった。信号2つの村がクリエイティブの現場になる。



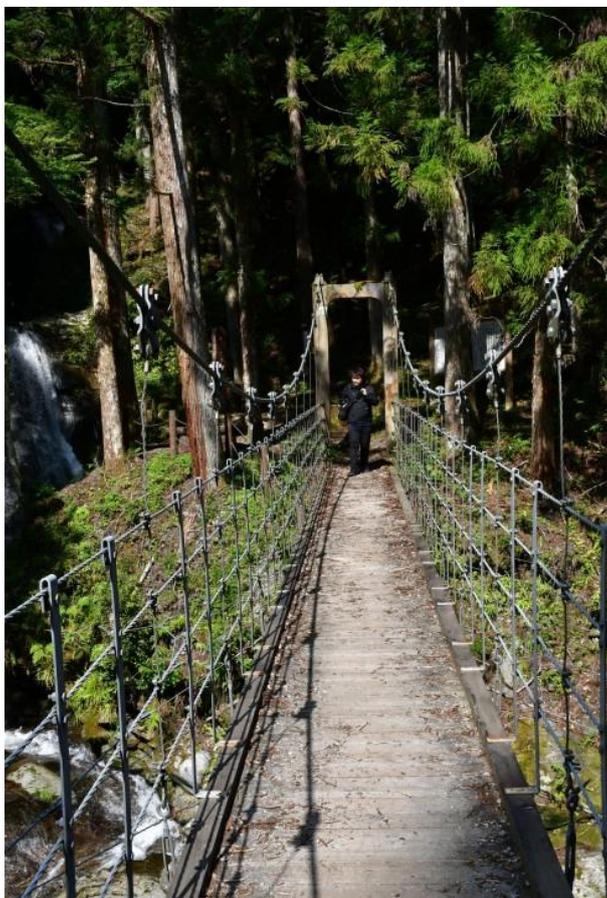
「会社の部署単位で都会から来て『企画合宿』してもらうのもいいですし、シンポジウムとかトークイベントなんかもいいですよ。普通にカフェとしても機能してますし。ここに集う連中に話聞いてみてください。そうですね、木工クリエイターの**中峰くん**、写真家の**福井くん**、私設図書館を作ってしまった**青木くん**を紹介します」

七滝八壺

さて、この『街頭をゆく』は基本的には自然歴史紀行です。せっかく自然美あふれる東吉野村を訪問したからにはここは外せません。



「七滝八壺」です。ななたきやつぼ、と読みます。



こんな吊り橋を渡っていきます。吊り橋といえば、「吊り橋効果」ですよね。



「は？」



吊り橋を渡る時のドキドキした感じが、恋愛のドキドキに似ているので、そばにいる人を好きなのではないかと勘違いしてしまう効果のことです。



「そういう現象があるんですね」



あるんです。

...さて、七滝八壺にたどり着くまでには少々山を登らないといけないのですが、楽勝だと聞いていました。
が、しかし、ハア、ハア、登ってみると...



楽勝ではなかった。



ですが、荒行の果て、ついに私はやりました。この山を征したのです。

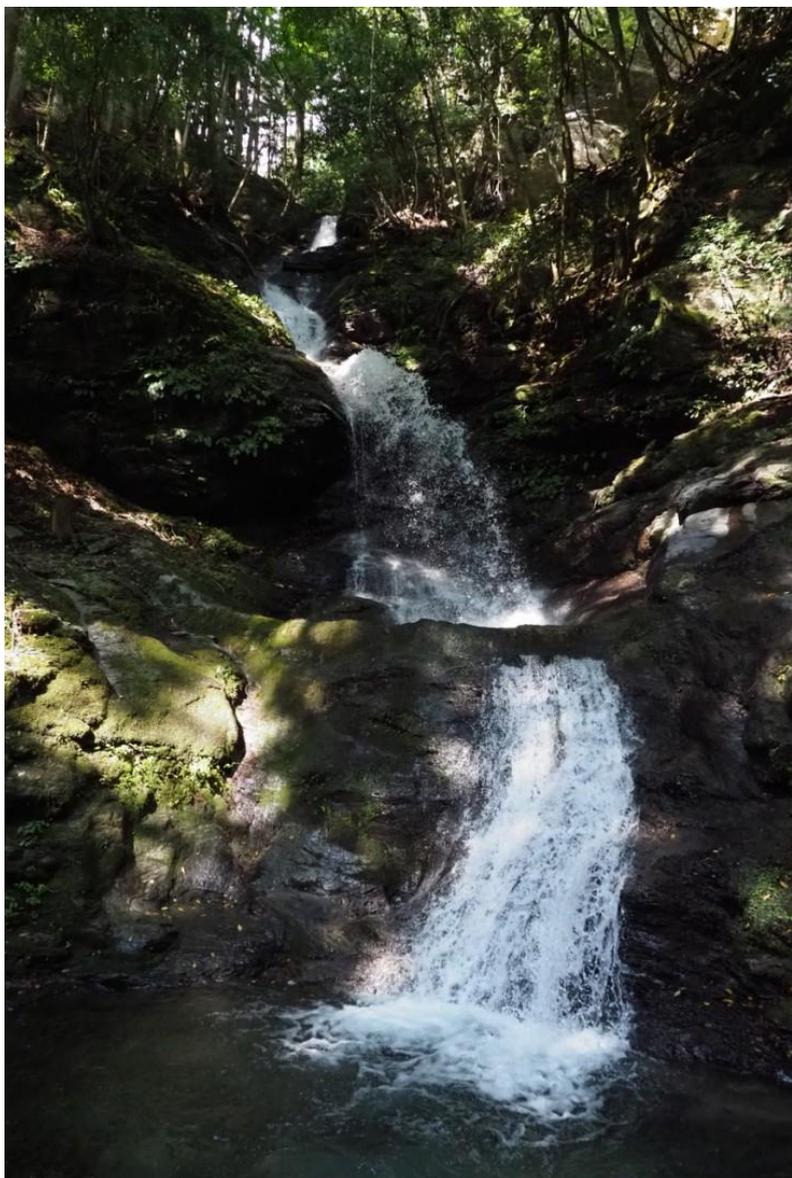




エイドリアーン！！



榎本さん、ぼく、がんばったよ。



落差 50m、七つの滝からなるのですが、「七滝八壺」というのは計算が合いません。**滝が7つなら滝壺も7つやろ。**

「七転び八起き」にあやかってつけたそうですが、そもそも**「七転び八起き」も数学的に不可能**やろ。

そういえば、「ヤマタノオロチ」もおかしい。頭が8つの大蛇なら、股は7つやろ。

そんなことを真剣に考えていると

おなかがすきました

またの話はまたの機会にいたしましょう。人間は何かを食べないとイケません。もうお昼ですが、僕は朝から朝ごはんしか食べていないのです。



お伺いしたのは、こちら。「きのこの館」。





次から次へときのこが襲ってきます。どうやらきのこのことだけ考えているお店のようです。その味わいを文学的に表現すると、とてもおいしいです。



壁面には、著名人や芸能人のサイン色紙が多数飾られ、このお店の人気をうかがわせます、しかし、半径数キロ内にほかに飲食店もなさそうなので、**ここで食べるしかなかったのではないのでしょうか。**ですが、ほんとうに美味しかったので、おすすめです！



移住者・中峰さん一家



さて。山あいにあられた一軒の工房。ちなみに東吉野村では「山あい」しかありませんので、なんでも「山あいの」と書いておけば間違いがありません。



こちらでお目にかかったのは**中峰渉さん**。



「もともと僕は飛騨高山で木工家具を作っていたんです。そのあと兵庫県に住んでたんですけど、**半年前に、嫁さんと子供ふたり連れて引っ越してきました**。この4年間は、サラリーマンをしながら土日は兵庫県からここ東吉野村に通って、木工に打ち込んでたんですけど、いよいよ住もうかって家族と話し合って」

「住んでみると、特に不便がないんですね。ネット通販も翌日なんでも届きますし。やっぱり、自然に囲まれてるのがよくて。昨日も川で魚獲ったんですよ。こう、モリで突いて。鮎は、突くんがむずかしいんですよ。動き、速いでしょ」

中峰渉さんは34歳、お子さんは4歳と1歳だそうです、**去年の東吉野村の小学校の新一年生...**
「1人」だそうです。お子さんが小学校に入られる頃には移住者がもっと増えて、クラスメートができるといいですね。

あ、ご自宅にお邪魔してもいいですか？

「はい。道を渡ってすぐそこです」



中峰さんがデザインしてつくった木作品がたくさんなんだ素敵なお宅です。



ええなあ。



奥さん、みなさん、おじゃまします。



おっ！ 「ほぼ日カレンダー」 じゃないですか。

「もうちょっとマーカーが細いとありがたい、とお伝えください」

奥さん、承知しました。言うときます。

で、奥さん、涉さんに移住しようかって相談された時、反対しませんでした？

「配偶者がサラリーマンを辞めて**ほんとにしたい仕事があるとき**、反対したら 40 代になったら心
の問題を抱えるかもね、ってアドバイスをくれる人がいて、そうだなって思いました」

主婦の立場で不便なことはないですか？

「スーパーはちょっと遠いかな。**あと意外なのは、公園がない**」

あ、そうか。大自然の中なので公園は必要ないですよ。

「公園がないと、子供を連れた主婦同士が顔見知りになる、とかがないんです」



これから移住をしてみたいと思う人にメッセージがあるとしたら？

「東吉野村にはオフィスキャンプもあるし、役場のみなさんはじめ、**相談できる人がたくさんいま
す**。僕もいますし。まずは通ってみて、家族とよく話し合って、魅力を感じてもらえたらいいなと思いま
す」

「ぜひ引っ越してきてください」

お子さんの同級生、増えて欲しいですもんね。

最後のニホンオオカミ

東吉野村といえば、やっぱりニホンオオカミです。



絶滅してしまったこの生き物の、最後の、ほんとうに最後の一頭が確認されたのが東吉野村なのです。

1905年（明治38年）。ロンドン動物学協会に東アジア動物学探検隊員として選ばれ来日していたアメリカ人のマルコム・アンダーソンさんは、東吉野村の芳月楼という宿に泊っていました。

いつものように捕獲した動物を剥製にする作業をしていると、3人の猟師が1頭のニホンオオカミの死骸を持ってやってきました。

「これが、日本で捕獲された最後のニホンオオカミになろうとは、当時、想像も及ばないことである」とアンダーソンさんの通訳と助手をつとめた金井清氏は回想しています。このニホンオオカミは、**現在もロンドン自然史博物館**に保存されています。



(画像提供：東吉野村)

ぐったりしとるやないか。



(画像提供：東吉野村)

ロンドンではかなりぐったりとしておられますが、東吉野村ではご存命の頃の雄姿が...



元気かよ！！



このニホンオオカミがモデルになった東吉野村のゆるキャラ「ひよしちゃん」とご対面です。このゆるさとはえらい違いや。

東吉野村教育委員会の**新子友一さん**にお話を伺いました。

「オオカミは、野生の猛獣と言いますが、東吉野村で人間が襲われたという昔の話はきいたことがないです。むしろ害獣を食べてくれる。山の生態系の頂点ですね」

「山の神様なんですよ。日本語のオオカミの語源は大神（おおかみ）ですし、人々があがめていたんです。外国では童話などに悪い動物というイメージで出てきますが、日本ではないですね」

にしても、最後の一頭が東北とか、信州とか、もっと山深い地方ではなく、この京都や大阪にも近い奈良県にいたとは。しかし、絶滅してしまった。オオカミは、犬には似ていますが、とうとう人間と共存することはなかったんですね。

「人間の生活環境が広がった、植林がさかんになって住むところを追われたこともあるんでしょうね。狂犬病やジステンパーが原因で滅んでしまったとも言われています」



「東吉野村では、ニホンオオカミ手作り絵本コンクールを開催しまして、入賞作品を刊行しています」

...こちら『ひみつのさんぽ』、作者さんの名前は**エホンオオカミ**...っておもしろすぎるやろ。



しかし、絶滅して100年以上経ったのに、狼の遠吠えとか、見たことなくとも小さな子供でもイメージできますよね。オオカミは、人間にとって**心の中の存在**でありつづけているわけですね。

続きは、「街頭をゆく 田中泰延 東吉野村紀行②」をごらんください。